

令和7年第3回 邑南町議会定例会（第5日目）会議録

1. 招集年月日 令和7年3月3日（令和7年2月20日告示）
 2. 招集の場所 邑南町役場 議場
 3. 開 会 令和7年3月14日（金） 午前 9時30分
 散会 午前11時29分

4. 応招議員

議席	氏 名						
1 番	石國佳壽子	2 番	奈須 正宜	3 番	鍵本 亜紀	4 番	野田 佳文
5 番	日高八重美	6 番	瀧田 均	7 番	平野 一成	8 番	和田 文雄
9 番	宮田 博	10 番	漆谷 光夫	11 番	中村 昌史	12 番	辰田 直久
13 番	石橋 純二						

5. 不応招議員 なし

6. 出席議員 13名

議席	氏 名						
1 番	石國佳壽子	2 番	奈須 正宜	3 番	鍵本 亜紀	4 番	野田 佳文
5 番	日高八重美	6 番	瀧田 均	7 番	平野 一成	8 番	和田 文雄
9 番	宮田 博	10 番	漆谷 光夫	11 番	中村 昌史	12 番	辰田 直久
13 番	石橋 純二						

7. 欠席議員 なし

議席	氏 名						

8. 地方自治法第121条第1項の規定により、説明のため会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	職 名	氏 名	職 名	氏 名
町 長	大屋 光宏	副 町 長	白須 寿	総務課長	大賀 定
資産経営課長	沖野 弘輝	情報みらい創造課長	柳川 修司	地域みらい課長	田村 哲
財務課長	三上 和彦	町民課長	秋田 敏子	医療福祉政策課長	坂本 晶子
産業支援課長	小笠原 誠治	建設課長	上田 修	保健課長	岩井 和也
羽須美支所長	三上 徹	瑞穂支所長	三浦 康孝		
教 育 長	大橋 覚	学びのまち総務課長	植田 啓司	学びのまち推進課長	原 拓矢
水道課長	高瀬 満晃				

9. 本会議に職務のため出席した者の氏名

議会事務局長 井上 義博 事務局調整監 田中 利明

10. 町長提出議案の題目 別紙のとおり

11. 会議録署名議員の氏名

議席	氏 名	議席	氏 名
12 番	辰田 直久	1 番	石國 佳壽子

12. 本日の会議の概要は別紙のとおりである。

令和7年第3回邑南町議会定例会議事日程（第5号）

令和7年3月14日（金）午前9時30分開議

開議宣告

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

令和7年第3回 邑南町議会定例会（第5日目） 会議録

【令和7年3月14日（金）】

—— 午前9時30分 開議 ——

~~~~~○~~~~~

（ 開議宣告 ）

●石橋議長（石橋純二） おはようございます。  
（ 「おはようございます」の声あり ）

●石橋議長（石橋純二） これより本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配布をしたとおりでございます。

~~~~~○~~~~~

（ 日程第1 会議録署名議員の指名 ）

●石橋議長（石橋純二） 日程第1。会議録署名議員の指名をいたします。12番辰田議員。1番石國議員。お願いをいたします。

~~~~~○~~~~~

（ 日程第2 一般質問（ 通告順位第7号 ） ）

●石橋議長（石橋純二） 日程第2。一般質問を行います。昨日に引き続き一般質問を行います。それでは通告順位第7号、野田議員登壇をお願いします。  
（野田議員登壇、「拍手」あり）

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 4番野田です。よろしく申し上げます。1期4年、任期中最後の一般質問です。振り返ると、常々思っていたことはよい町にしたいという思いと、変

えようと思うなら言うだけではなく動く。昔からの慣習が壁になるなら乗り越えないと何も変わらない。時代の流れとともに改革が必要なときもある、ということを中心に置いて活動してきたつもりです。ここから通告してあります一般質問に入らせていただきます。今回は、デジタルツールを活用した一人暮らしの高齢者の見守り対策について。居場所づくりについて。邑南町の知名度アップと観光ビジョンについて。質問します。3つの項目は別々なんですけど、自分の中では共通点があります。発信や取り組みを知ることで、邑南町が更に選ばれる町になってほしいという思いもあります。最初の質問は、一人暮らしの高齢者の見守り対策についてです。一人暮らしの高齢者の不安をなくしたいという思いで質問します。少子高齢化や人手不足の中で高齢者の見守りは重要な課題であり、一人暮らしの高齢者の増加に伴い地域の支え合いとともにデジタル技術・デジタルツールを活用した見守りの仕組みを導入することは、有効な手段の一つと考えます。各自治体においては、一人暮らしの高齢者への訪問に加え、安否確認。日常生活の状況把握。健康相談等。高齢者が安心して在宅生活を続けられるようにすることを目的として様々なデジタルツールを活用した見守り活動を行っている状況があります。例えば、LINEを活用して高齢者を見守るサービスや、IoTインターネットオブシングスというんですけど、IoTはあらゆるものをインターネットあるいはネットワークに接続する技術であり、日本ではモノのインターネットと訳されています。インターネットに接続されるのは、パソコンや携帯電話といった通信機器でした。最近では、スピーカーや照明・各種家電・身の回りのあらゆるものがインターネットにつながるようになっていきます。具体的な例として、トイレの電球をIoT対応のものに変え点灯消灯が一定時間行われないうち、コールセンターに通知が届きコールセンターが緊急連絡先等に安否確認を行います。IoTのような新たな技術は、人の暮らし、老後の安心感にもつながり今後も更に進化していくと思います。デジタルツールの活用にあたっては、高齢者の意見を聞いたり、使いやすい仕組み・導入可能なサービスについての情報収集と持続可能な見守りの仕組みも必要ですし、もちろんデジタルツール以外の多様な見守りの手法についても関係機関と連携しながら、研究検討をしてほしいと思います。デジタルツールを活用した一人暮らしの高齢者の見守り対策について、答弁を求めます。

○坂本医療福祉政策課長（坂本晶子） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、坂本医療福祉政策課長。

○坂本医療福祉政策課長（坂本晶子） 一人暮らしの高齢者の見守り対策について、デ

デジタルツールの活用について御提案をいただきました。現在邑南町において見守りを意識した高齢者福祉事業といたしましては、お弁当の配達に合わせての見守りや安否確認を行う配食サービス。そして、急病や災害等の緊急時に迅速かつ適切に対応し暮らしの安心安全をお手伝いする緊急通報装置貸与事業を行っております。また、民生委員をはじめとする支援員の皆様や地域住民の皆様にも大変御協力をいただき、地域の中でのお声かけ見守りをいただいているところでございます。議員御提案のLINEといったデジタルツールを活用した見守り支援など支援方法が増えるということは、見守りの目がきめ細くなるということにつながりますので、住み慣れた地域に暮らし続けることの後押しになると考えております。一方で、今年度保健課が実施いたしました75歳以上の方を対象とした後期高齢者健診に合わせて行ったアンケート調査では、スマートフォンの所持率・LINEなどの機能の使用状況をお聞きしております。75歳以上の方のスマートフォンの所持率は約6割。そして持つておられる方のLINEの使用率が約6割でございました。ですので結果といたしましては高齢者全体をカバーして活用するには、少し課題があるように認識をいたしたところでございます。また、むくのき会をはじめとする一人暮らしの高齢者の会の事務局支援を行っております、邑南町社会福祉協議会からも昨今の状況を思い会員の見守り合いに向けての活動を考えていきたい、とお話を伺っているところでございます。そうしたお話し合いの中で、デジタルツールを活用した一人暮らしの高齢者の見守り対策について、本日議員のほうから御提案いただきましたLINEでありますとかIoTなどについて、新しい見守り方として情報提供いたしまして連携して研究してまいりたいと考えております。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 先ほどスマートフォンの所有とかLINEの活用とか、6割ということ。まず、一般質問を見てそのデジタルツールの活用に興味を持っていただくということも大切だと思って、そうした中で興味を持っていただければ更にワンステップ進めると思っていますので、これからいろいろまた自分自身も研究していきたいと思えます。時代はもっともっと更に進化していくと思うんですよ。そういった様々なことも研究していただきたいと思えますし全てお任せして終わりにしませんので、私のほうもしつかりと更に研究して、また提案できることがあれば提案していきたいと思ってます。よろしくお願ひします。続いては、居場所づくりについてです。不登校についてお話を聞く機

会があり学校には行かないが友人とは会うというお話を聞きまして、更にいろんな方から話を聞く機会があり自分がイメージしていた不登校の原因とは違い様々な原因があることがわかりました。全ての子どもたちに、学びの機会と1人で悩みを抱え込ませない環境をどうすればつくれるのかという思いから質問します。全国的に不登校の児童生徒数は増加傾向にあります。邑南町での不登校の推移と現状について答弁をお願いします。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、原学びのまち推進課長。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 不登校の推移と現状についての御質問でございます。個人や学校の特定を避けるために具体的な数字を申し上げることは控えさせていただきますが、当該年度で連続又は継続して30日以上欠席した不登校の児童生徒の状況につきましては令和2年度から増加傾向にあります。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 具体的な数字っていうものは言えないということなんですけど、増えているということです。現状についてはそうお聞きしました。やはり、増えているとなると対応・支援策を考えていく必要がありますが、不登校の原因について、文部科学省の分類では、無気力・不安やいじめ・生活リズムの乱れ・家庭の問題などが挙げられております。邑南町での不登校の原因について答弁をお願いします。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） はい、番外。原学びのまち推進課長。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 不登校は、複数の要因が重なって不登校に陥る傾向がございます。そのため、不登校の原因となっている要因については断定はできませんが、小学校児童では、令和2年度から続いていたコロナ禍の影響が大きく感染拡大防止のための休校、それから様々な活動が変更を余儀なくされたということで生活リズムが崩れ

やすくなってしまう、それから子どもたちの関係の希薄化が要因と考えております。また、中学校生徒では、学力不振からの不安、それから友達関係、家庭問題の悩み、コロナ禍における生活リズムの乱れや学校を欠席することのハードルが低くなってしまったことが要因と考えております。また、担当者により不登校支援におけるヒアリングにおきましては、エネルギー切れの状態の児童生徒、それから学習意欲に乏しい状態の無気力傾向等が上がってきております。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 不登校の原因についてお聞きしました。それぞれの異なる背景や課題を抱えており、そこは一人一人に寄り添った支援というものが求められてくると思います。不登校の子どもたちへの対策については後でお聞きしますが、まず、不登校の問題において、子どもだけではなく保護者への支援も重要であると考えております。不登校の子どもを抱える保護者の方々は不安や孤独を感じる事が多く、適切な情報提供や相談が求められるのではないのでしょうか。不登校の子どもの保護者への対応についてお聞きします。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、原学びのまち推進課長。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 不登校児童生徒の保護者に対して学校は、本人・保護者と密に連携をとり合うことは重要でございます。話し合いを重ねる中で、保護者の思いに共感し信頼関係を築くとともに、不登校に対する理解やその背後にある様々な要因について情報を提供する必要がございます。続きまして、学校と保護者の間で定期的な相談を実施する中で、保護者に対して現在行っている学校の取組みやその進捗状況について適切に伝えていくことも大切であると考えております。特に、学習面での不安要素に対しては柔軟な学習の仕方をお伝えすることが重要です。町内の学校でも本人や保護者との相談の上、オンライン学習やプリントなどの個別指導など適宜行っております。同時に、学習支援や特別な配慮を含む子どものための適切な教育計画を立てていることも伝えております。さらに、保護者の精神面で負担を減らすために学校以外に保護者が相談を個別に受け

る機会を提供することも重要です。専門家が、保護者の不安や悩みを聞き精神面での適切なサポートなどを行うことで保護者の不安感を軽減できます。邑南町では、昨年度よりスクールソーシャルワーカーを2名体制にしております。相談体制を強化しております。具体的な動きといたしましては、今年度はスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーが保護者面談を行っております。そこで保護者の教育ニーズに合わせ対応を行っております。来年度は、不登校保護者を対象に保護者の抱える不安や子どもに対する悩みについて、気軽に相談のできる場を設定することを考えております。今年度の動きですが、昨年8月に第1回の不登校対応ワークショップを開催しております。学校と支援機関とつながりづくり、それから児童生徒保護者とのつなぎ役になることを目的に来年度も計画を計画しております。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） ワークショップに関しまして、来年度もということで周知等していただいて、保護者の方の不安というのをなくしていただきたいと思います。続いては、不登校の子どもたちへの対応と居場所づくりについてお聞きします。不登校の子どもたちへ様々な対応をされていると思いますが、不登校の子どもたちの対応について個別の事情があるため一律の解決策ではなく個人に合った支援が必要だと思っております。不登校の子どもたちにとって解決策の1つとして、学校以外の安心できる居場所の確保は重要であり、学校外の学び場においては多様な選択肢を検討する必要があると思っております。保護者の方といろいろと話を聞いた中で、居場所、何か所か回った中で1か所子どもに合った居場所があったということをお聞きしました。それは町内ではなく町外だったんですけど、やはりそのときに選択肢は必要だと思って今、この質問をしとるんです。全国では、学校復帰を前提としないフリースクールや自然体験を通じた支援を行う居場所など様々な形態の支援が広がっており、自分も以前邑南町の自然体験をしたサイトがあるんですけど、そのサイトを久々見たらオンラインでのフリースクールもあり、やっぱり様々な選択肢があっていると思います。不登校の解決において重要なのは、学校復帰だけを目的とするのではなく、子どもの心と体の元気を取り戻し自信や安心を与えることも大切だと思います。先ほど、エネルギー切れっていうことをおっしゃったと思います。ここは、まずはそういった元気を取り戻す場所も必要だと思ってます。教育長は教育方針の中で、子どもの居場所づくりについて学校に行きづらい子どもに対する居場所づくりについて、現在設置している

教育支援センターや学校現場関係機関の教育的ニーズを把握するとともに、専門家の意見もいただきながら関係各課との協議を重ね邑南町の状況に即した具体策へつなげていきますと述べられました。これはお願いしたいと思うんです。しかし、邑南町の現状に即した具体策ができたとしても、それを選ぶのは子どもたちだと思います。だから、居場所づくりには様々な選択肢があったほうがよいと思います。不登校の子どもへの対応と居場所について、答弁をお願いします。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、原学びのまち推進課長。

○原学びのまち推進課長（原拓矢） 不登校児童生徒への対応については教育支援センターであります竹の子学級を中心に、学習支援・安心して過ごすことのできる居場所支援を行っております。いずれにしても、児童生徒にかかる皆さんには野田議員のおっしゃられたとおり、不登校児童生徒への支援は学校に登校するという結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え社会的に自立する方向を目指すように働きかけていくことが大切と考えて、不登校対策を取り組まれておられます。その動きの中で、今年度は邑南町に必要な子どもの居場所について、児童生徒の支援に関わる関係機関の職員それから支援児童生徒へのニーズ調査を実施しております。このニーズ調査によりまして、教育支援センターの拡充やフリースクール。それから校内教育支援センターの設置の必要性など居場所のニーズ把握に努めております。さらに、調査と並行いたしまして新たな居場所としての校内教育支援センター。それからフリースクール。子ども食堂など様々な居場所について現在調査研究を行っているところでございます。今年度の動きといたしましては、3月19日に大田市で居場所支援を行われておりますゆきみーるの関係者を招きして居場所支援に関わる関係者や事業所を対象にしました、こども・若者の居場所講演会の開催を計画をしております。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 居場所にはいろんな選択肢があったほうがよいという同じ思いがあるということ、今理解いたしました。そして、またいろいろ講演会があるというこ

とです。引き続き研究していただきたいと思ひますし、やはりこの問題に関しても全て町に丸投げして終わらせるつもりはありませんので、自分自身も更に研究していきたいと思ひています。続いては、邑南町の知名度アップと観光ビジョンについてです。知名度がアップすることにより交流人口が増えて邑南町のファンになっていただき、ふるさと寄附増や定住促進につながればという思ひで質問します。まず、12月に少し触れました観光スポットのグーグルマップの活用についてです。議員の席をいただいてから、場所によっては職員の方を案内しながら発信面を見てきました。一時期2年近く止まっていた邑南町のインスタグラムが動き始めて、今確実にフォロワーが伸びております。インスタグラムなどへの投稿のため邑南町の各所に撮影に行っているのです、グーグルマップのための撮影ではなくインスタグラムへの投稿と同時に進めることができる。インスタグラムへの投稿は役場に戻ってから編集されており、最近の投稿を見ると本当にとっても研究されており編集時間もかなり必要なのではないかと推測できます。後で話しますが、グーグルマップを活用したマイマップの場合周遊ルートをつくるとなると時間が必要となるんですけど、観光スポットの最新情報としてその場で写真を一、二枚アップします。短めのコメントを取り付けることもある。例えば写真をアップして、青空の下で撮影したとか、そういった短めなコメントで十分だと思うんですけどその場でアップできる。自分の場合、グーグルマップに足跡をつける感覚でアップしています。その足跡が増えれば増えるほどプロフィールを見てもらえる回数が増え、知名度アップにはつながるといふうに思ひております。さらに細かく説明すると、町政座談会の資料の産業振興に観光ビジョンの策定と書いてあった。括弧して町内の周遊等近隣からの誘客とかインバウンドと書いてあります。周遊性の向上については、グーグルマップのマイマップ機能を活用して観光スポットをルートとして可視化できる。作成したマイマップは、ほかの人と共有することができたりします。共有といへば、以前提案した邑南町の選挙ポスター掲示場のように皆が見ることができるといふ。効率的なルートを示すことで観光客がより多くのスポットを訪問する可能性が高まり、また観光エリアを散策する際に見逃しがちな場所への誘導も可能となります。以前マイマップについて提案しようと思ひたのは、以前広島広域都市圏での交流で広島市から邑南町に来られていた職員の方が滝マップをつくりたいという話があつて案内したことがあります。ただ、その滝だけではなく山城であつたり自然を楽しむルートであつたり歴史や文化をめぐるルートであつたり食を楽しむルートであつたり、あとはこれらを全部ミックスしたルートなど様々なルートを提案できます。また、インスタグラムにアップされている邑南町の主要な観光スポットは既にグーグルマップ上にありますが、グーグルマップ上にない新たなスポットも追加できる。先日、一緒に撮影に行ったときに新たなテーマでの撮影をしたいというお話を聞きました。地域を掘り起こす良いきっかけになると思ひます

が、グーグルマップにないスポットもあります。公開された写真を見ていきたいと思ったときにグーグルマップになれば道順を説明するのも大変ですが、マップに追加しとけば道順を説明する手間もなくなる。コストについては、グーグルマップのマイマップ機能等は基本無料ですので新たなシステム開発や高額な予算を必要としない。限られた予算の中でインスタグラムと投稿と並行して進めることができ、発信手段としては効果的です。あと、SNSの拡散効果としては、作成したマイマップの情報をSNSやウェブサイトで発信できるし、逆にマップのプロフィールを見て邑南町のホームページに誘導もできて知名度アップにもつながると考えております。観光スポットのグーグルマップの活用について、答弁を求めます。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、小笠原産業支援課長。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 観光スポットへのグーグルマップの活用に関して御提案をいただきました。グーグルマップを活用した観光スポットなどの紹介につきましてはある程度の情報収集や入力作業などの必要はございますけども、先ほど議員おっしゃいましたように既にこちらで保有している情報、例えば写真データであったりとかそういった既に使ったものが活用できたりというところもございますし、大きな経費をかけずに更にグーグルマップという多くの方々が使う汎用的なツールを活用するという点で、そういったものを活用して邑南町を紹介するということができる点では観光情報の有効な発信手段の1つになるとこちらも考えております。このグーグルマップへの登録につきましては、先ほどおっしゃいましたようなこれから新たなスポットを登録できるということもございますけども、既に登録済みのスポット情報につきましても、これから写真の追加であったり情報の更新や充実を図っていく必要があるものと思われまますので、そういったことも今やっている作業と並行しながらやっていけるのではないかと考えております。それと御提案のありましたマイマップ機能につきましても、先ほどおっしゃいましたような滝マップであったりとか、まだ試行的な段階でございますので、そういったものもまた深めていくように、そういったことで町内の周遊の参考になるようなマップの作成や活用方法につきまして、例えば観光協会などとも連携協力しながら活用に向けて研究をしてまいりたいと考えております。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 研究のほうよろしくお願いします。また、自分もいろいろとアドバイスできることがあったらしっかりとしていきますので、よろしくお願いします。続いて観光ビジョンについてです。12月定例会で新しい観光ビジョンを自分たちでと、町長の答弁にありました。恐らく町長自身も何かしらのキーワードの1つや2つあるのかなと思っておりますし、座談会でも聞いた気がしますので後でお聞きしたいと思います。質問を進めます。健康・美・長寿推進協議会については参加しないとことでしたが、この協議会の元は邑南町での体験だと聞いております。健康・美・長寿プラス食というキーワードは邑南町の魅力だと改めて思っております。また1月に、フットパスの講習会に参加しました。フットパスというのは、イギリスで発祥した歩くことを楽しむための道のことで、農村部を中心にイギリス国内を網の目のように走っている公共の散歩道です。長いものだと160キロも続くものもあり、川や丘は当然ですけど、いろんな農場であるとかいろんな敷地を通れる道もあり、イギリス国民にフットパスを大切にする文化があるということ学びました。邑南町内において過去に開催された例をお聞きしました。まず最初に道の駅に行って買物などをして、次にまた目的地の場所にバスで移動します。でも、目的地の手前でバスから降りて歩いて目的地に行く。具体的に言うと、例えば、志都の岩屋であればすぐそばに駐車場はあるんだけど、その1キロぐらい手前に車をとめて歩くそうです。そして、たまたま歩いているときに通りかかった近所の方との出会いもツアーの醍醐味だそうです。そして、昼食は地元の方が作られたお弁当を食べて、最後にまた道の駅によって買物をしていただくということでした。道の駅を拠点とした12地区をつなげたり、12地区各所の体験が可能だと思います。今、各地区で地域資源の掘り起こしをされていると聞いて、ちょっと現場にも行ってきました。日貫においては、東屋城というところあるんですけどそこを拠点として歩くということ。昨日お聞きしたんですけど、二ツ山でもウォーキングイベント昨年やられて今年も計画しているということです。あと、口羽でも山城もありますし石州瓦など歩いてめぐらるって話を聞いて、歩くという言葉は邑南町での観光においてキーワードになるのかなと思います。地域特性を生かしたウォーキングを基軸とした、観光振興と地域活性化の効果的な方策として自然・歴史・文化・食を体験できるフットパスは有効であり、新たな観光ビジョンをつくる上でのキーワードにあると考えております。新たな邑南町の観光ビジョンについて答弁を求めます。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、小笠原産業支援課長。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 新たな観光ビジョンにつきましては、議員おっしゃいましたように令和7年度中に現行のものを改定する予定としております。令和2年に策定されました現行の観光ビジョンにおきましては、従来の一過性型消費型の観光に加え新たに持続型・生産型の観光概念を取り入れ、地域に暮らす人々とその暮らしそのものを資源の1つとして捉えて、そこに興味を持つ旅行者層を関係人口として取り込むための取組みを進めてきたところでございます。この間、町内観光関係事業者による観光資源の掘り起こしや相互連携に関する話し合いを始め町内の宿と観光体験をつなぎ、商品化するための取組みも少しずつでありますが進んできております。議員御提案のフットパスにつきましても、そういった取組みに含まれるものと理解をしております。フットパスは、現在広島旅行会社が造成している旅行商品として町内を会場に実施されてきておりまして、この中でも町内の歴史や観光ガイド付きで体験するという内容が好評であるとお聞きしております。こうした実績やノウハウを今後活用する観光コンテンツの広報とし、また観光ビジョンの改定の際にもぜひとも参考とさせていただきたいと考えております。こういったことも踏まえまして、新たな観光ビジョンにつきましては、今まで進められてきました関係人口の取組みも引き続き実施しながら、また新年度から再開や開業を予定しております香木の森公園エリアや道の駅邑南の里の活用についても盛り込みながら、内容を検討していきたいと考えております。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 新たな観光ビジョンには、とても期待しております。この質問の冒頭で町長に答弁を求めたので、町長はこの新しい観光ビジョンについてどのような思いがあるのか答弁を求めます。

○大屋町長（大屋光宏） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、大屋町長。

**○大屋町長（大屋光宏）** 観光ビジョンについての質問だと思います。邑南町は、以前から農業にしてもお土産にしても観光にしても何も無い。例えば、お土産はよく言われると思います。ただ、無いわけじゃなくてそれぞれ素晴らしいものがあるんだけど知名度として広く知れ渡ってない、若しくは観光客を以前のように大型バスで呼び込むとかそういう観光地がないということなんだと思います。ただ、時代は大きく変わってきて集団での観光から個人に変わってきてます。今説明もさせていただきましたし、野田議員の指摘のとおり見て楽しむから体験するに変わってきてる中で町長の思いついていうことでした。この度自分たちの手で観光ビジョンを変えたいっていうのは、元々議会の中でもやりとりでずっとあったのは、来られた観光客の方にまず町内を周遊してもらって滞在時間を長くするそういう仕組みがないという指摘もあったんです。今ある観光ビジョンも私が議員のときに受けた説明では、ちょうど2020年の東京オリンピックの直前にオリンピックがある国内に人が来る。それを呼び込むために、早急にビジョンをつくりたいって言われたんですが、できたビジョンは少し趣が違った。お客さんを呼び込むであるとか、町内で周遊していただく、滞在時間を延ばすっていう部分では少し違ったのかなと思います。そういう意味では、今の時代に合わせた計画をつくっていききたいとは思ってます。その中でキーワードっていう肝心なことあるんですが、邑南町としては、道の駅・霧の湯・久喜大林銀山・三江線の鉄道公園等、それぞれ個別にお客さんを呼べる部分はあります。そうすると、それらを連携した中で他の観光地であるとか体験にどうつなげていくかっていうのが1つの大きな課題だと思っております。あわせて、やはり周辺自治体との協力っていうのも必要かと思っております。必要だというのは、邑南町の位置的に、例えば国道であれば261号線で北広島から川本町・江津市。高速で言うと浜田道であるとか、江の川である、旧三江線である。様々な面で周辺自治体と協力しやすい、声をかけやすい立地条件にあります。神楽っていう体験でも広域的な活動ができるんだと思います。決して中心的に頑張りたいという意味じゃないんですが、立地的に可能性としては非常に高いのでそういう部分も生かしていければと思っております。あわせて少しちょっと視点は違うのかもしれませんが、例えば、今島根大学の作野先生が邑南ラボということで来ていただいて毎年邑南町を研究対象としていただけてます。お金をかけてPRする新聞に載る等あるんですが、少し一時的なものもある。ただ学術対象として見ていただければ、論文であるとか発表であるとか長く残っていく。少し広く知れ渡るわけじゃないですけどその分野では広まっていくということも大事かなと思うので、久喜大林であるとか三江線の陸橋であるとか歴史的だとか学術的な価値っていうのもあるんだと思います。そういうものも生かしながら計画を立てたいと思っておりますし、冒頭で少し述べましたとおり広くPRして、たくさん団体で来ていただくよりは、それぞれ、今野田議員も最初言われたとおり、グーグルマップ

等SNSとかインターネットを使えば全世界に情報発信ができます。本当にこれ誰が興味を持つのっていうものであっても、世界で言えば何万人かもしれないです。そういう声掛けの仕方もあるかもしれないです。今までとは違った考えの中で、先入観とか固定観念をなくした中で取組みができればと思いますので、まずは自分たちってというのは私たちも変わりながら計画をつくりたい、考えを変えたいというので自らの手でやっていきたいと思っています。

●野田議員（野田佳文） 議長、4番。

●石橋議長（石橋純二） 4番、野田議員。

●野田議員（野田佳文） 今の観光ビジョン、町長もおっしゃってた趣が違うのではないかというのは自分もずっと感じていた。やっぱり、これから新しい観光ビジョンの策定については本当に期待はしておりますし、あとまた地域住民の方もいろんなことをされていますので、ぜひ意見を聞いていただきたいと思います。そして本当にもう一度言いますが、すばらしいものにしていただきたいと思っています。最後の一般質問になりましたが、邑南町の未来を明るくものにしていただきたいという思いを残しまして、一般質問を終わります。ありがとうございました。

（野田議員降壇、「拍手」あり）

●石橋議長（石橋純二） 以上で、野田議員の一般質問は終了いたしました。ここで休憩に入らせていただきます。再開は、午前10時30分とさせていただきます。

—— 午前 10時 15分 休憩 ——

—— 午前 10時 30分 再開 ——

~~~~~○~~~~~

（ 日程第2 一般質問（ 通告順位第8号 ） ）

●石橋議長（石橋純二） 再開をいたします。続きまして、通告順位第8号辰田議員登壇をお願いします。

（辰田議員登壇、「拍手」あり）

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 12番辰田でございます。3月定例会に当たりまして3つの質問をさせていただきます。1つ目は、令和7年度予算編成の背景について。2つ目は、新たにまた再出発される施設、道の駅・霧の湯について。3つ目は、町内の投票所の設置状況について。以上3点を質問させていただきます。まず最初に、令和7年度予算編成の背景についてということで。町長は年度途中で就任をされました。国政の不安定な時期、国内景気も都市に偏っている部分の好景気もあるとは思いますが、それに加え物価高騰。そのの邑南町としてのいろいろな対応等、ある意味大変な時期に首長になられたなという感覚もあるわけです。その辺を含めて答弁をしていただければいいんですが、主に何を基本として編成された来年度予算なのであるか。それとこれまでの方針や方向性が大きく変わるものは何であるか。これは、大屋町長のカラーは出したいが出しにくい部分。そしてこれからは公約含めて自分の考えをもとにやらなければいけないという思いもあったと思います。町内におきましては、人口減少、そして人手不足、高齢者福祉の問題、学校再編というような課題が目の前に立ちふさがってきているような気がします。こういった面も含めて、来年度予算どういったところに重きを置かれたか。まず答弁をいただきたいと思っています。

○大屋町長（大屋光宏） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、大屋町長。

○大屋町長（大屋光宏） 新年度予算令和7年度予算の何を基本にして編成したか。また、今までとは方針なり方向性が変わった部分というお話でした。また、町長自らの独自性の部分もどの点かという質問だとは思いますが。編成方針等につきましては施政方針も含めまして述べさせていただいておりますので、省略させていただきます。まず、財政再建というのは大きな課題の中でちょっとわかりにくい部分ですが、職員のまず最初の努力として、議員指摘のとおり人件費であるとか物価高騰部分があります。それらを含めると、約6億6,000万ぐらい前年度よりは経費が増加してるんだと思います。比較の仕方は様々あるとは思いますが。ただその中で基金の取崩しは、昨年度より増えたのは3億

1,000万ですので、約3億5,000万程度については町長査定の前に職員の方々の努力によって事業見直し等によって削減できた。財政再建について自分たちで考えて努力をしていただいた部分が、しっかりとあるのだと思います。数字では出ない部分ですが、そこは評価していかなくちゃいけないとっております。そういう中で町長査定において少し考えたのは、当然事業費はお金としては削減しなくちゃいけないですが、先々を見据えると事業そのものの削減事業数を減らすっていうのは、1つのポイントだと思っております。それと、来年度は負担かもしれないけれど長い目を見たときに負担がどれだけ減るかっていう部分があると思っております。具体的に言いますと来年度予算の中で、例えば阿須那診療所のLEDの照明の工事については2か年の計画で予算を最初組んでました。それは単年度の負担を減らすっていう意味ですが、トータルで見ると物価高騰の中で早く工事をしたほうがいい。分けてやることによる事務的な負担もあるっていうことで、来年度1年でやるということに変えました。これでどのぐらい削減できたかは難しいですか、事務負担は減るものと思っております。それと、小中学校の防犯設備です。私の方針としては小中学校の統廃合は考えていきたいって言っておりますが、一方で今いるお子さんということでしっかりとした学校施設の更新なり事業は続けていきたいと思っております。ただ、担当課も考えていただいて、国の補助金等を使うと先々で統廃合なり学校の廃校があった場合に、補助金返還等の可能性があるということで自己財源でできないかということを考えていただきました。国の補助金を使うと、どうしても補助金の条件とかがあって過剰なもの必要最低限とはならないところがあるので、事業全体を見直していただいて町負担は若干増えるかもしれませんが、国の補助金申請等が必要なくなればその事務っていうのは減ってくるのかなと思っております。今邑南町は脱炭素先行地域っていうことで、様々なものの電動化を進めてます。ただ、一方で町内経済の下支えであるとか、身近な小売店とか、ガソリンスタンドの維持というのは大きな課題です。その中で、自動車の更新が電気自動車ということで予算を最初お願いがありましたが、地域課題を解決するために世界で見れば脱炭素は必要かもしれませんが、町内の維持・生活基盤を維持する。ガソリンスタンドの維持のために補助金を出しながら、一方で電気自動車を入れるっていうのは若干の矛盾があるかなと思っております。この度は普通の軽自動車でっお願いもしました。そういう形で、少し1つの事業で町内の経済なり事業者を支えることもできながら、応援しながら事業展開をする。職員の負担も極力減らしていくということを視点に入れてます。私自らの部分でいうと、町長交際費については今まで100万円だったのを来年度は60万にしています。情報公開を進めていく中で、使える部分使いにくい部分であると思っておりますので、皆さんの理解を得ながら必要最低限な交際費に努めていければと思っておりますし、情報公開につきましては予算とは全く別ですが、町長の資産公開については今までは閲覧っていうところを、ホームペ

一吉上の公開にこの度条例改正をお願いしています。直接的ではないかもしれませんがハラメントについても、町長自らの立場を鮮明にするためにこの度条例の制定もお願いしています。そのように情報公開も努めて透明度を高めながら、私自らがってという部分を示していく中で町全体で事業の見直し等を進めていければと思っております。非常に、全体として数字としてまだ表面に出ない部分はあるかもしれませんが、少しずつ意識改革なり思いを皆さんに示せる予算になっているかと思っております。よろしく申し上げます。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 個別の事例を挙げて説明をいただいたわけですが、町民にとりましては、財政難であるということがだんだんよくおわかりになってきたと思います。ただ、自分のおうちの懐と同じようにお金がないから大変だ大変だ、というような感覚とはまた違った意味で見ていただく必要があります。これは、自分だけでなく町内全体、それから関わっている仕事も含めて全部に関係してくることなので、やはりそういった説明を度あるごとにお話をする。苦しい苦しいというばかりでなく、こうすれば改善できるとかそういった話も含めて、今が大事なときですので理解を進めていっていただくような予算編成を、今後も考えていきたいということを周知していただければと思っております。それと2つ目ですが、一連の大型事業です。道の駅そして石見中学校、そして一部事務組合ですが邑智病院につきましても構成町として負担の多い部分でございます。そして、あと2問目で質問すると霧の湯につきましてもウッドボイラーの導入。そして、木材確保のために1億数千万という投資をしたはずですが、それで終わりでもないわけで、今後のこともいろいろ不安な面もあるように思うわけなんです。こういった一連の事業が一気に終わったわけなんですけど、それが今後どのようにランニングコストを含めて町内負担もあると思うんです。財政等そして大型事業が終われば、今度はそういった工事の面も減っていくんじゃないかという業者さんの不安もあると思うんです。その辺を含めて本町の財政施策の面でどのような影響が考えられるか。今の時点でわかる範囲で教えていただきたいと思います。

○大屋町長（大屋光宏） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、大屋町長。

○大屋町長（大屋光宏） 御質問は一連の大型建設事業は完了するがということです
が、非常に申し訳ないんですが今年度末で完了しないというのが現状です。まず、今年度
末に予定どおりきちっと完了できないことがどんな影響があるかっていう話をさせてくだ
さい。良い話がなかなかできなくて非常に申し訳ないんです。例えば、事業期間が延びる
ってだけで事業費ってというのは一定量増えていきます。繰り越すということで国から
の補助金であるとか交付金であるとか、様々な手続ってということで事務負担が増えてきて
ます。一方で金利上昇局面ですので、毎年度事業実績に応じて起債等はしていきませんが、
まだ残ってってことは来年度にもお金を借りなきゃいけないということ。当然借入れの金
利も上がってくる。そういう面で見ますと、年度にきちっと仕事できてないってことは
当初の見込みが悪かったのかもしれないです。事業期間の設定等の反省は多々あるんです
が、やはり年度年度にきちっと事業を完了していかないと事務的な負担、予算的な面でい
うと金利負担の増大もあります。一方で、長期的に見ると毎年毎年幾ら事業をして、それ
を幾ら借りていつ幾ら返すかっていう償還計画がありますが、それがずれてきます。平準
化して、ある年に償還額が急激に増えないようにってということで調整して事業をしてま
すが、それがずれてくればどうしても借入れ時期のずれが償還時期のずれにつながってき
ます。それはそのまま来年度以降の事業実施の影響も出てきます。もう1点。計画の悪さっ
ていうのはあるんですが、道の駅にしても石見中学校にしても。特に道の駅はそうす
が、計画してから完成するまですごく長い年数がたってます。計画したときの思いが達成
できるかどうかっていう社会情勢の変化もあります。一方で、時間的なタイミングの時間
軸での物事の考え方がすごく悪かった、もう少し考えているんなことをしなければ。今後
の施策っていう意味では、例えば3月2日に山陰道の出雲の部分で完成しました。これ
は、今は地域経済なりその自治体の産業振興に寄与するために完成時期っていうのは早く
から明示されてます。山陰道については、令和元年に公表されたんだと思います、令和6
年度中に完成しますということが。これを道の駅の完成としっかり合わせておけば、邑南
町においても違う産業振興ができたのかなと思ってます。そういう意味で他の施策、動き
と町の動きをしっかりリンクさせてこなかったできてなかったってというのは、大きな反省
だと思います。悪い話ばかりしましたがその反省として、起債について金利負担を減ら
すために繰上償還ができないか、若しくは今後の借入れにおいては据置期間のとり方っ
ていうのを考えていかなきゃいけない。短くすれば、1年当たりの返す金額が減るのでそ
ういう償還方法の見直しもしなきゃいけないと思ってますし、来年度から井原コミュニティ
センター、あわせて国スポの関係で大きな事業に取り組んでいきます。学校の統廃合の話
もそうです。しっかり時間軸として計画を立てて、議会の皆さんとも情報共有できる方法

を考えながら事業展開を進めて計画どおりきちっとやっていくっていうのが、あとの世代に対しても計画して事業ができるということにつながりますので、一つ一つ反省点を踏まえながら今後の事業展開に生かしていければと思っております。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 今回の答弁の中でも最後の部分で少し出ましたが、将来の学校像を考えた予算の計上も成されておりますのでその質問をさせていただきたいと思えます。今回の3月議会においても、そういった再編を踏まえたプロセスについての質問もあったように思います。今回の、そういった再編を踏まえた検討をする組織を立ち上げ順々に進めていくということで、そのプロセスの間にその間が不明瞭であるというかわからない点、それからこうしたほうがいいんじゃないかというような提案の中で、いろいろ議論もされているところなんです。私は、どうであれ結局はやはり専門家の人、そして学校とか教育現場の方、そしてもちろん保護者・生徒・地域・そういった町内におられる方、こういう方が全部利害が一致しいろんな意味でまとまっていけば一番いいことだと思います。これは、なかなか今までのいろんな例を見ても、学校だけでなくいろいろ課題もあるし、後に遺恨を残したような部分もあるかもしれません。ただ、今はこの人口減少そして生徒の減少も含めこういった環境の中の邑南町の中で、何が一番ベターであるかいうことを追求していかないと、まとまるものもまとまらないような気がするわけなんです。そこで今の現状、私が把握している中でももちろん生徒の減少は御承知のとおり、そして各学校・地域にも歴史や伝統があります。そして、学校も生徒さんの人数も大きく違うところもあります。そして、校舎ももう50年以上たってそろそろ建て替えが必要になってくるような学校も出てきます。そして、教える先生の教師の確保もままならない状況の中で以前は加配という、ある意味先生をたくさん配置していただくことができたのですが、今は先生不足、そして学級に対しましても普通学級そして特別学級等ありましたが、その特別学級でも枝分かれをしなければいけないような制度になってきておるともすれば、その上に先生方も限られた仕事の中で、残業時間がかなりオーバーしているんじゃないかというぐらいいやっておられるような状況も聞きます。そして、あとは再編が具体的になってくるとやはり出てくるのは、地元が寂しくなるから学校は残してほしいという部分が今までは先に立ってきたような気もします。今までは学校再編をしなければならぬんじゃないかという、ちまたではそういった話は数年前からあったわけですが、前町長の方針のもとでそう

いったのがまかり通ってきたというか、認知してきた部分があったかもしれません。今、ここで急に出てきてばたばたするというのは、これまでの20年間に最初から言えばかなり減ってきているので、並行してそういう再編のことも考えていかなかったツケが、私は今ここに来たのではないかという気もしております。一部の地域では学校がなくなったということで、代替の同じ学校という食の学校いうのができました。しかし、今となつてはその活用についてもまた悩んでいるような状況もあると思います。ですから、やはりどこかである意味英断を下さなければいけない状況に来ているのも事実ですので、今後そうした検討委員会というものがどういった形で青写真的なものは出ておりますが、そういった部分にもこういった背景も加味しながら、町民の方にいろんな部分も考えていただいて、やっぱり先生・生徒・地域・保護者等がやはり皆ある意味50%以上は納得できるなというような形ができれば、一番ベターではないかと思っております。そういった意味で、今再編の問題を主に捉えて小中学校の関連施策についての対応についてお聞きをしたいわけですが、ほかの意味でもたくさん学校関連聞きたいことがたくさんございますので、この点に絞って再度になるかもしれませんがその方針を改めておきたいと思っておりますので、答弁をお願いいたします。

○大橋教育長（大橋覚） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、大橋教育長。

○大橋教育長（大橋覚） 議員御質問の、将来を踏まえたという意味で少し説明をさせていただきたいと思っております。まずもって今在り方というところで、教育の本質を含めて将来を見据えた動きを展開しようとしております。一方で、既に学校に通っておられます児童生徒さんもおられます。その中で、教育委員会としては一方ではそういった将来を見据えたっていう動きをしておりますけど、一方では現時点で邑南町らしい教育の推進をするためのいろいろな教育環境づくりもしていけないといけないと思っております。具体的には、ソフト面でいきますといろいろな支援体制、生活支援、学習支援、日本語、外国語あるいは図書館司書、スクールサポートスタッフ等々、人的な配置をしっかりと行わさしていただいて、教育委員会はよく以前よりこの言葉を使わせてもらってますけど、将来のよき隣人に向けてどのようにサポートできるかっていうところ。一方ハード面におきましても、いろいろな環境不備がございます。それを優先順位をつけてしっかりと環境づくりも同時に進めていけないというように考えているところでございます。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員

●辰田議員（辰田直久） 今教育長が言われたことを実現するためにも、やはり一度そういう学校の再編について、みんなで考えてみなければいけないところに来ているのだと思います。それで、一番は20年前の教育と今の教育は全然変わってきております。ですから、都市部にも負けない現代的な教育に対応できるベターな教育ができる学校を、やっぱり再編を含めていろんな面で考えていかなければならないと思います。それで検討委員会には専門家の方ももちろん入られるように聞いておりますが、そういった方は外部からでしょうから、こういった地域のことと様子とかそういったものでなく、教育の在り方とそれからこの町に合った方向性といいますか、そういった部分をベストな環境を享受していただくような形にして、それから今のような周囲の方、そういった方にも意見を聞いていかれたほうが私はいいいんじゃないかという気をしておるところでございます。この問題につきましては、年度が変わりましたらそういった方向で詰めていかれると思いますので、そういった議員の立場そして地域に住む人間の立場を踏まえて、拝見させていただいたり話を聞かさせていただける機会があるんじゃないかと、期待をするものでございます。そうした中、次2問目に入らせていただきたいと思います。道の駅。完成があとずれをちょっとはしておりますが、一応夏ぐらいの完成を見込んでいます。そして霧の湯につきましては、この4月から開業の予定であるということは聞いておるところでございます。待っておられる方は、本当にアバウトでなくいつからなんだろうかというような思いをされているところでございます。こういった時期について、現在の時点で開業できる日程等がわかればそれをまずお聞きしたいと思います。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、小笠原産業支援課長。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 今年度新たに再出発する施設、道の駅・霧の湯についての準備状況と開業予定時期という御質問でございます。まず、霧の湯につきましては、いわみ温泉霧の湯をはじめ香遊館・香夢里・クラフト館・バンガロー等を含む香木の森公園エリアは、令和7年度からは一体的な指定管理としまして、指定管理者となる江の川・さくらライン観光推進機構により現在準備が進められているところでございます。

指定管理者との協議の中で計画されている内容としましては、現在閉館中の先ほどの霧の湯と香遊館のレストラン部分につきましては4月より再開し、地元自治会の方や報道機関などを対象にまず4月の18日と19日にプレオープンし、その後4月24日に本オープンをする予定で準備中ということでございます。また、現在も営業中のクラフト館や公園部分につきましては4月1日から引き続き営業されますが、バンガローにつきましては霧の湯などと同じく4月の24日に再開し、冬季間のみ休館しておりました香夢里につきましては、今年夏ごろの再開で検討をされているようでございます。なお、レストランと同じく休業中の香遊館の宿泊営業につきましては、都合により新年度以降も再開は当面の間未定ということでございます。これらの内容や予定につきましては、今月の広報配布に合わせまして町民の皆様にもお知らせする予定としております。続いて、道の駅邑南の里につきましては、本年度こちらも開業に向け現在準備中でございますが、建設工事の遅れが生じておりますことから詳しい日程はこれからとなりますけれども、現時点では開業予定時期を今年夏ごろということでございます。なお、道の駅もこれまでのように指定管理による運営を予定しております。建設工事とともに運営開始の準備についても進めているところでございます。あらかじめ選定しております指定管理予定者とも協議しながら、準備中でございます。こちら、開業予定時期など詳細がわかり次第町民の皆様にお知らせする予定としております。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 霧の湯につきましては、ある程度具体的なことを言っていたきました。ここもいろいろ紆余曲折もありましたがようやく再開にこぎ着けられ、そして町のほうも入湯税を減免されるという、誘客にプラスに働くのではないかと対応もされているところから、ぜひともまた再稼働にのって町内の1つの地域の名物の施設だとして、たくさんの利用をされることを期待しておるところでございます。道の駅につきましては今になっても夏ごろということなんですが、これは大型事業というか大型事業過ぎたんだと思います。そういった形で、世間一般の物価高騰。それから資材の納入遅れ等も加味するわけでありまして、当初計画より遅延しているということによって、生産者やテナントそして期待されていた一部の消費者にとっては遅延も残念なことだし、まだ明確に言えない部分があるんですけど、遅れたことによってそういった方々への影響というものは出ていないか。考えられるものがあれば教えていただきたいと思っております。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、小笠原産業支援課長。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 計画が遅延しておりますことに関する影響についての御質問でございます。この計画の遅延につきましては、年度の後半から次第に明らかになってきた部分でございます。今回の道の駅につきましては、一番大きな内容としましては産直市というものがございます。町内の生産者の方に、売場面積も拡大して多くの方に来店をしてもらうということが目的でございます。そういった方々の作付についても、この時期の遅れというのは影響するものでございますけれども、そういった方がいつでもどれだけのものを出品、そのためにいつ作付をすればいいかというところは、年度の後半から皆様にもある程度状況を説明をしながらできるだけ夏ごろに向けて出品ができるようにということ、この冬ぐらいのところでも改めてお願いをさせていただいてるところもございますので、極力影響がないようにということの対応を図っているところでございます。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 夏といいますと夏野菜の一番取れるとき、そして当初計画であるスイカを推奨して苗の配布等もあったわけですが、スイカもお盆までには食べるようなものですので、そういったものも含めて、是非とももう夏休みに入ったらできるという子どもさんも休みで人の往来も大きくなる場所ですので、それに向けて努力するのが私はベターだと思っております。申し添えておきたいと思っております。それと2つ目ですが、この当初計画から変更部分と新たな取組みというのは、霧の湯につきましては休止しておいた部分もあってそんなに大きな変更はないと思っております。ウッドボイラーを導入されたぐらいだとは思いますが、道の駅なんですけど当初の基本設計部分、私どもも石見中学校の基本設計のときと同じように、議会も関わらせてもらったような気もするわけですが、その後実施設計ができた。だんだんできてきたときに、もちろん途中で屋根材の変更等はあった。これは大規模な変更だと思います。中身についても、この前全協だったと思いますが、ドッグランが計画してあったものはどうしたんかとか、そういう部分もあってそれは中止さ

れたということがありました。ほかにももし当初の示された計画よりも変わったものがあるれば。あとは子どもさんが待つ間学習施設というか勉強するスペースがあるとか、そういうのも聞いたんですがそういうものは残っているのか、そういった話も全然断ち切れになつとるわけなんですけど、予算の関係もあった上多少の変更があったのかどうか。その辺も含めて変更部分と、それから当初はなかったがこういうものを取り入れたというものがもしあれば教えていただきたいと思います。大きな変更については多分議会のほうにも相談があったと思いますが、そのほかの部分で確定しているものがあれば教えてください。

○田村地域みらい課長（田村哲） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、田村地域みらい課長、

○田村地域みらい課長（田村哲） 道の駅に関しまして、当初計画からの変更分はという御質問と捉えさせていただきました。道の駅邑南の里につきましては、当初計画からの変更部分等新たな取組みということですが、道の駅瑞穂再整備計画については、令和4年の8月に策定しました、道の駅瑞穂再整備事業実施計画に基づいて事業を実施してきたというところがございます。この実施計画からの変更部分について、整理して御説明をさせていただきますと思います。整備に対する基本的なコンセプトであるとか整備施設に大きな変更はないんですけども、令和5年度に実施しました建築計画の変更設計に伴いまして、内部外部ともに施設配置が変更になっております。大きな変更点としましては内部の施設に関しては、2階部分に設ける計画としていた展望スペースを外部連絡用のスロープを変更設計に伴い取りやめをしたというところなんです。また、外部の施設につきましては、子ども広場に計画してました先ほど議員が言われたドッグランこれは取りやめたということがございます。全体を通して、施設配置とか面積の若干の増減、大きくよりは減るほうが多いんですけどもそういったところがございますけども、当初計画しました道の駅で備えるべき機能については、大きな変更点はないと捉えております。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 多少の変更はあるけど大きなものはないということなんですけど、ただこの道の駅に関しましては、予定の指定管理者という形で早々から上がっていた

部分もあるんです。変更があるとやはり受けようとする組合側との相違の部分とかやってみたい部分とか、収益に関係してくるのではないかという部分もあると思うので3問目にも関わってくるわけなんです。具体的には、利用者サービスの充実によって町内の業者さんとか消費者さんとか影響も出てくるとは思うんですけど、指定管理者が継続的に営業ができるような状況も確保しておくことも大切だと思うんですが、財政にも関連する行政負担の部分もかなり大きな施設であるのであると思うわけです。そこで突発的な事態の対処は除くとして、1年ベースで今後どのようなものがどのくらい行政負担として発生しそうなものか。そして受ける側の管理者側、これが継続営業ができないような形になることも大変だと思います。この辺の負担割合といいますか、その条件的なものはまだ詰めておられないのか。それとも従来ですとそろそろ開業にならなければいけない時期だったので、その辺を詰めておられるのか。ちょっとこの辺についてお聞きしたいと思います。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、小笠原産業支援課長。

○小笠原産業支援課長（小笠原誠治） 指定管理料や光熱費等を含めて町が負担すべき経費は、という御質問でございます。まず、香木の森公園エリアにつきましては一体的な指定管理ということで、公園部分を含む一体の管理費として指定管理料を支払う予定としております。この指定管理料は、施設や公園の維持管理に要する経費から、霧の湯や香遊館などの収益を差し引いても不足すると見込まれる費用を公園エリア全体で合算して算定をしたものでございます。続いて道の駅邑南の里につきましては、まず、道路管理者であります島根県が管理する休憩施設部分と邑南町が管理するそのほかの地域振興施設部分に区分されておまして、休憩施設というのは24時間開放しているトイレでありますとか、休憩情報発信施設、駐車場の一部、のことでございまして、全体面積の約1割程度の面積部分でございますけども、その光熱水費や修繕費などの経費につきましては管理する島根県が負担しますので、それ以外の地域振興施設の部分を町が負担するということになります。こちらも指定管理を予定しておりますので、先ほどの地域振興施設の町の負担部分の経費につきましては基本的に指定管理者が一旦は支払うこととなりますが、このうち主に直売飲食施設などの収益が見込まれる収益施設の部分は、こちらは収益のほうで賄っていただくことも多いんですけども、それ以外の部分、いわゆる非収益施設の部分、収益が見込めないような部分につきましては、こういったものの経費をおおむね指定管理料として最終的に町が負担するということで計算をしております。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員

●辰田議員（辰田直久） これも今後ずっとこの先発生してくるものなので、これはある程度確定した時点でそういった部分の配分とそれと金額的なもの、これを議会に示していただきたいということをここで申し上げておきたいと思います。それと、あとは再開そしてリニューアルオープンされるに当たって、もちろん指定管理を受けられた業者さんの組合の方が努力されるのは当然なことだと思いますが、そういった宣伝・営業活動の分担的なもの、もちろん町にもいろんな関係人口を増やしていくためには町のほうもある意味努力をされないといけないと思います。特に、道の駅の場合は観光バス等でたくさんのお客様に来ていただくような方法、そういったところの営業ですよね。これはかなり遠方からも来ていただけるんじゃないかと思えますし、霧の湯につきましては少し減っているかもしれませんが、海水浴とかスキー場に来られた方がかなり利用されていた時期もありますので、そういった部分も含めて町の立場として、指定管理者とどういったコラボレーションを組んでやっていかれる計画があるか、教えてください。

○大屋町長（大屋光宏） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、大屋町長。

○大屋町長（大屋光宏） 霧の湯については、長く休業していた経緯もあります。道の駅邑南の里については、規模も大きくしてリニューアルです。先ほど少し述べましたが、本来であれば山陰道の開通等々全て開業時期が一緒であれば、何らかのイベントを組むとか誘客ができたわけですが、少しずれてます。今の段階で、道の駅邑南の里も開業確定できない状況です。改めまして、道の駅の開業日等が決まりましたら、総合的に町として応援する施策をしっかりと考えましてキャンペーンをすとかPRを一体的に行うとか、また6月議会等で相談させていただければと思っております。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●**辰田議員（辰田直久）**　少し質問外だったかもしれませんが、町も今後財政負担が発生する上ではやはりそういった部分の協力体制、それからしなければいけない部分とこれは指定管理者でしようという部分のことを分けていかないと、なあなあでいくと今までの繰り返しになるような気がします。それから道の駅につきましても、旧施設の今後の方針も決められて対応していくというところが今煮詰まってきたと聞いておりますので、一旦きれいに、こういった事業は、今後運営していくための予算だけで済むような形にしていかないと、なかなか軌道に乗っていかないんじゃないかと思うところでございます。そうしますと、大きな3問目に入らせていただきます。町内の投票所の設置状況についてでございます。目先に議会議員選挙があるので聞いたわけではないんですが、これはかなり前から町民の方からも聞いておったことで、昨年も選挙がありましたのでその辺で気づいたことなんですけど。まず、町内の投票場の設置につきましては、期日前投票は皆さんに大分認知されてきて、やろうと思えば各支所本所等でもできるかもしれません。一般の公民館を使ったりすると、人口とか広さとかそういうものは、今の状況を見ますと加味されてないような気がするわけなんですけど、その数と指定の根拠、現時点の状況でいいのでそうされた根拠を教えてくださいたいと思います。

○**秋田町民課長（秋田敏子）**　議長、番外。

●**石橋議長（石橋純二）**　番外、秋田町民課長。

○**秋田町民課長（秋田敏子）**　選挙管理委員会のほうに御質問をいただきました。私、事務局長の町民課長のほうで答えをさせていただきます。町内の投票所についての御質問でございます。投票所の設置数や場所の指定につきましては、1投票所当たりの有権者数やそれから地勢その他の事情を考慮して、投票事務管理能力の許す範囲の中で選挙人の投票の便宜を図って決定すべきとの通達がございまして、邑南町選挙管理委員会といたしましてもこれに基づき投票所を設置をしております。合併当初は合併前の39の投票区をそのまま使用しておりましたが、平成22年の参議院選挙より24の投票区に統廃合をしております。その際は、有権者数またその面積あと距離や投票所までの時間ということを考慮しまして、新しい投票区を決定をしております。また、令和元年には24投票区を21投票区に変更しておりますが、その際は投票所のバリアフリーや駐車場などの改善を中心に検討をいたしまして、変更をしております。1投票区の投票者数が多くなるため、事務従事者を増やすなどして投票者の待機時間は長時間にならないように対応をしております。

ます。

●辰田議員（辰田直久） 議長、12番。

●石橋議長（石橋純二） 12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 設置数についても、当初から言えば増えてはない、だんだん減ってきてる。昔は移動投票所みたいのもがあったように思ってるわけなんですけど、これ旧3町の投票所を、最初は活用というかその経緯を見ながらやってこられたんだとは思いますが。旧石見町の場合をとりますと今5地区ありますが、それ多分1地区1か所しかない。そうすると、これは人口密度じゃないですが投票密度と言えればかなりの人数になる。それで国政選挙と重なったりすると、裁判官の審査とか3枚ぐらい投票行動を起こさなければならぬ部分があります。それに加え高齢者が多い。それでそこまで行く距離も長い。自分で行くことがかなわない人も、連れてってあげるからというのはちょっとまずい誘い方でもあるというような部分もあれば、なかなかそこで投票したい意思はあるけど、すごく待たされるからとかいうようなことがあってはならないと思う。その辺の緩和的になっているのが、今期日前投票がある程度増えておりますが、期日前投票も決まった場所で遠いところに行かなければならないのは同じこと。ですから条件は一緒だと思うわけです。それに前回の町長選挙でもあったんですが、様式ですよ。丸をすればいい部分と名前を書かなければいけない部分で戸惑われたりする部分もあるわけです。これは事前に例を挙げたようなものを周知しておかないと、投票時の数とかいう問題じゃない以前の問題も出てきたように思います。それと投票所もそういった利便も考えないと、島根県は投票率は高い。邑智郡もその中でもかなり高いわけです。それもかなり面積あるけど高い。でも、今広くても不便でも行っておられるということは、逆に言えば行政にも関心があるという裏づけでは私はないかと思えます。そういった思いをもっと吸い上げるためには、投票所設置についてももう1回考えてみる必要もあるように思うわけです。棄権される方はいつも棄権されている。投票行く方は投票行くんだというような形に色分けされているような部分もあると思うんで、この辺をいま一度、そういった人数とかよりも利便性の部分を考えていくことによって、投票者数も増えるしそれなりの対応を住民の皆さんもされるんじゃないかと思えますので、ぜひともそういった面を考えていただきたいわけです。選挙管理委員会は、そういった意味では投票についての違反とか手続とかそういったものばかりに目をやらずに、こういったものから1つずつ、有権者そして行政に、それから議員も成り手不足なんですけど、そういった部分に関心を持っていただくのは投票から始まって

投票に終わるじゃないですが、そういったことも思いますので、そういった投票率とか効率性を上げる配慮をいま一度考えていただけるか、その辺の答弁をお願いいたします。

○秋田町民課長（秋田敏子） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 番外、秋田町民課長。

○秋田町民課長（秋田敏子） 議員がおっしゃられますように、投票所の数を減らした際には巡回式の移動記述前投票所を設置、あるいは期日前投票への臨時バスを運行するなどそういったこともやってまいりまして、先ほど言われましたように、投票したくてもできないというような問題解消には努めてまいりましたけれども、そのときには利用者数が減少しまして令和元年より廃止をしております。ただ今おっしゃられましたように、事前の周知であるとか今後の利便性ということも選挙管理委員会のほうでは検討をさせて、今までの選挙の期日前投票の状況や当日投票の状況など様々な角度から分析を行っていきたいと思います。

●辰田議員（辰田直久） 議長、番外。

●石橋議長（石橋純二） 残り時間が少なくなっております。12番、辰田議員。

●辰田議員（辰田直久） 私は視点が当事者というか受ける側ですので、いろいろ言いにくい部分もあるんですが、逆にそうだから有権者の方からいろいろ意見を聞く場合もありますので、ぜひとも選挙管理委員会の委員さんとも御相談されたりして、もう一度見直していただくことを要望をしておきたいと思います。そして我々の任期最後だという質問で議員さん皆立たれましたが、いよいよこれで私で任期中の一般質問は最後になると思います。最後に1分ほど言わさしていただきたいんですが、任期中は皆さんそれぞれ新しい方もベテランと言われる部類も皆ずっと質問をさせてきたわけですが、もちろん執行部の皆さんの中にも今回で退職をされる方もいらっしゃると思います。大変御苦労様でした。また、今後も町のために獅子奮闘していただける職員さんもおられると思います。今、町民の皆さんの認識も私らも一番大変な時期を迎えているということです。来年度は、ぜひ再生邑南町の元年と思って、またこの場で是々非々も含めて協力していかなきゃな部分は協力しながら、未来の、将来の邑南町のために議論を交わされる場として、町の発展を祈って、今任期の最後の質問とさせていただきます。

ありがとうございました。

(辰田議員降壇、「拍手」あり)

●石橋議長(石橋純二) 以上で、辰田議員の一般質問は終了いたしました。

~~~~~○~~~~~

(散会宣告)

●石橋議長(石橋純二) 以上で本日の日程は全て終了しましたので、本日はこれにて散会といたします。お疲れ様でした。

—— 午後 11時 29分 散会 ——